

新クリーンセンター建設事業に係る令和3年度事後調査報告書の概要について

3 新クリーンセンター建設事業

(1) 事業の概要

① 事業者	佐久市・北佐久郡環境施設組合
② 事業実施区域	佐久市
③ 事業の内容	廃棄物焼却施設の建設
④ 事業の規模	処理能力 110 t / 日
⑤ 条例該当	第1種事業：ごみ焼却施設（処理能力4 t / 時（96 t / 日）以上）
⑥ 関係地域	佐久市、小諸市、軽井沢町及び御代田町

(2) 事業の経過

H24. 7	環境影響評価方法書公告
H26. 4	環境影響評価準備書公告
H27. 4	環境影響評価書公告
H28. 6	対象事業着手報告書提出
R 3. 2	対象事業完了報告書提出（完了年月日：R2. 11. 30）

(3) 事後調査報告書の概要

- 令和3年度は、存在・供用時における大気質、騒音・振動・低周波音、悪臭、水質、水象、土壌汚染、植物、動物、景観の調査結果等を報告。

- 大気質 ※冬季の調査は令和2年度に実施
・ごみ搬入車両等の走行

調査項目	調査地点	事後調査結果
二酸化窒素	アセス時現地調査と同じ3地点	全地点で環境基準等及びアセスの予測結果を下回った。
浮遊粒子状物質		全地点で環境基準及びアセスの予測結果を下回った。

- ・焼却施設の稼働

調査項目	調査地点	事後調査結果
二酸化硫黄	アセス時現地調査のうち6地点	全地点で環境基準を下回り、アセスの予測結果と同程度又は下回った。
二酸化窒素		全地点で環境基準等及びアセスの予測結果を下回った。
浮遊粒子状物質		全地点で環境基準及びアセスの予測結果を下回った。
塩化水素		全地点で参考値及びアセスの予測結果を下回った。
ダイオキシン類		全地点で環境基準を下回ったが、3地点でアセスの予測結果を上回った。周辺環境の変化等によるものと推測。
降下ばいじん		全地点で参考値を下回った。

※上記の項目のほか、一酸化窒素も測定。

- 騒音・振動・低周波音
・ごみ搬入車両等の走行

調査項目	調査地点	事後調査結果
道路交通騒音	アセス時現地調査と同じ3地点	1地点で参考値を上回ったが、アセスの予測結果と同程度又は下回った。
道路交通振動		参考値を下回ったが、1地点でアセスの予測結果を2 dB 上回った。

- ・焼却施設の稼働

調査項目	調査地点	事後調査結果
施設稼働騒音	アセス時現地調査のうち2地点	参考値を下回ったが、1地点の夜間でアセスの予測結果を1 dB 上回った。
施設稼働振動		参考値を下回ったが、1地点でアセスの予測結果を上回った。
低周波音		G特性音圧レベルは参考値及びアセスの予測結果を下回った。1/3オクターブバンド音圧レベルは参考値を下回ったが、1地点の昼間で中心周波数40Hz、夜間で中心周波数31.5Hzの値がアセスの予測結果をそれぞれ1dB 上回った。

○ 悪臭

- ・焼却施設の稼働

調査項目	調査地点	事後調査結果
特定悪臭物質 臭気指数	2 地点対象事業 実施区域（風上・ 風下）	全地点で参考値及びアセスの予測結果と同程度又は下 回った。
臭気指数	1 地点	

- ・ごみ搬入車両等に係る洗浄施設の稼働 ※佐久スキーガーデンバラダの調査は令和2年度に実施

調査項目	調査地点	事後調査結果
特定悪臭物質 臭気指数	対象事業実施区 域（洗浄施設近 傍）	参考値及びアセスの予測結果と同程度。

○ 水質 ※冬季の調査は令和2年度に実施

- ・1 地点で生活環境項目（浮遊物質量、濁度）、健康項目、ダイオキシン類、現地調査項目（気温、水温、外見、臭気、透明度、pH、電気伝導度）、流量を測定。

○ 水象

- ・観測井戸2 地点、既存井戸1 地点において、各月1 回、地下水位を測定。
- ・環境影響評価時の調査結果等とほぼ同様の水位であり、地下水位の低下は見られない。

○ 土壌汚染

- ・6 地点において、土壌汚染の影響の有無を把握。
- ・全ての地点で環境基準を下回ったが、2 地点で予測結果を上回った。周辺環境の変化等によるものと推測。

○ 植物

ヤエガワカンバ	移植成木	一部の枝が枯れているが、その他の枝は十分に展葉。一部の枝が根元から枯れ、キノコ・サルノコシカケの仲間・ウメノキゴケが認められるが、腐朽菌の影響は少ない。
	移植幼木	事業実施区域内に移植した幼木3個体は根元直径が大きくなるとともに、落葉して冬芽を形成。
	播種個体のうち移植	シラカンバと判定したH28・1個体、H29・1個体を対象事業実施区域の近傍に移植。
	播種個体	H30・133個体が順調に成長。
オニヒョウタンボク	移植成木	一部個体の葉にカビや虫の食痕が認められたが順調に活着。
	播種個体	H29・1個体生育。
	挿し木個体	H29・1個体、H31・3個体生育。R2・3個体はともに実は付けなかったものの、順調に生育。
ギンラン	H25生育場所、H27、28移植場所では確認できず。H29確認地点周辺に生育。	

○ 動物

ベニモンマダラ	<ul style="list-style-type: none"> ・食草のクサフジの移植先で植被面積を測定。H29:約7.8㎡、H30:約17.0㎡、R1:約17.9㎡、R2:約6.4㎡、R3:約3.2㎡と減少。減少の原因は、他の草本類の繁茂と考えられ、R3.11に繁茂したスゲ類の除草を実施。 ・ベニモンマダラの成虫は、生息基盤移植先で4個体、事業地内の移植元（クサフジ残存）で27個体を確認。
クリイロベッコウ	移殖後の調査を実施。移殖先で死貝2個体、本種以外の陸産貝類を確認。

○ 景観 ※落葉期の調査は令和2年度に実施

- ・景観資源及び構成要素について、繁茂期（R3.8）に3 地点で調査を実施。
- ・環境保全措置（施設色彩等への配慮、施設形状等の検討等）の実施により、焼却施設の存在による景観への影響はほとんどない。